

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄							備考	
計画の区分	学部設置								
フリガナ設置者	ガッコウホクシニホンフクシダイク 学校法人 日本福祉大学								
フリガナ大学の名称	ニホンフクシダイク 日本福祉大学 (Nihon Fukushi University)								
大学本部の位置	愛知県知多郡美浜町大字奥田字会下前35番6								
大学の目的	日本福祉大学は教育基本法と建学の精神「この悩める時代の苦難に身をもって当たり大慈悲心大友愛心を身に負うて社会の革新と進歩のために挺身する志の人を輩出する」に則り、教育標語「万人の福祉のために真実と慈愛と献身を」のもと、人間および社会に関する諸科学を総合的に教授研究し、高潔なる人格と豊かなる思想感情を培い、社会にとって有為な専門家であり、かつ地域社会に貢献できる人材を養成することを目的とし、広く人類社会の発展に寄与することを使命とする。								
新設学部等の目的	我が国における、工学教育のさらなる充実喫緊の課題であり、文部科学省でもデジタル・グリーンをけん引する高度専門人材の育成に向けて、「大学・高専機能強化事業」が展開されている。 特に、情報分野においては、IT（情報技術）人材に対する需要は質・量ともに年々増しており、2015年の人材不足数約17万人に対して、2030年では約59万人が不足すると予測されている(経済産業省、平成28年)。IoT、ビッグデータ、人工知能(AI)、ロボットに象徴されるいわゆる第4次産業革命においては、これまで実現不可能と思われていた社会の実現が可能となり、産業構造や就業構造が劇的に変わる可能性があると考えられている。このような社会的背景のもと、情報技術系人材の育成および確保についての社会的要請は極めて高く、今後さらにその傾向が強まることも予想される。また、政府により提唱されている「Society 5.0」ではAI・IoTを生かした少子高齢化等の社会課題の解決が謳われており、「AI戦略2019」の中では、AI人材の育成目標が掲げられているなど、高度な情報技術教育における大学の役割がより高まっている。 また、建築分野においては、建設技術者の高い有効求人倍率が継続している。さらに、超高齢社会や障がい者の社会進出に伴う社会インフラ整備の必要性も指摘されている。加えて、2019年に日本で開催された生物多様性条約締国会議COP10や2015年に国連で合意したSDGsを契機とした自然環境と共生した街づくりの推進などにも注目が高まっている。その一方で、建築士不足や建築士の高齢化の問題に対して、大学卒業後早期の受験を可能とするため一級建築士の実務経験が受験要件から免許登録要件となるよう建築士法が改正されるなど、建設業界において若い世代の人材需要がますます高まっており、建築分野における大学の役割もより高まっている。 以上のような社会的背景の認識のもと、「情報工学」、「建築学」分野におけるより高度な技術者を養成し、その技術をこれまで追求してきた、健康・福祉への活用のみならず、全ての人のWell-beingやSDGsに活用する教育・研究を展開するため、「情報工学」「建築学」を教育・研究領域とする、工学部を設置するものである。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地
	工学部 [Faculty of Engineering] 工学科 [Department of Engineering] 計	年 4	人 100	年次人 -	人 400	学士 (工学) [Bachelor of Engineering]	工学関係	年 月 第 年次 令和7年4月 第1年次	愛知県半田市東生見町26番地2
			100	-	400				
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数					卒業要件単位数		
		講義	演習	実験・実習	計	124単位			
	工学部工学科	85科目	44科目	3科目	132科目				
新設分	学部等の名称		基幹教員					助手	基幹教員以外の教員 (助手を除く)
			教授	准教授	講師	助教	計		
	工学部 工学科		10人 (6)	4人 (4)	1人 (1)	0 (0)	15人 (11)	0人 (0)	47人 (27)
		a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	8 (6)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	13 (11)		
		b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
		小計（a～b）	8 (6)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	13 (11)		
		c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
		d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	2 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)		
計（a～d）	10 (6)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	15 (11)				
計		10 (6)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	15 (11)	0人 (0)	— (—)	

大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数 11人

既	社会福祉学部 社会福祉学科		18 (17)	15 (12)	7 (5)	7 (6)	7 (40)	0 (0)	72 (72)	大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数 16人	
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	18 (17)	15 (12)	7 (5)	7 (6)	7 (40)	/	/	/		
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
	小計（a～b）	18 (17)	15 (12)	7 (5)	7 (6)	7 (40)					
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
	計（a～d）	18 (17)	15 (12)	7 (5)	7 (6)	7 (40)					
	経済学部 経済学科		12 (12)	2 (3)	1 (1)	1 (1)	16 (17)	0 (0)	69 (69)		大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数 12人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	12 (12)	2 (3)	1 (1)	1 (1)	16 (17)	/	/	/		
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
小計（a～b）	12 (12)	2 (3)	1 (1)	1 (1)	16 (17)						
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)						
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)						
計（a～d）	12 (12)	2 (3)	1 (1)	1 (1)	16 (17)						
健康科学部 リハビリテーション学科 理学療法専攻		4 (4)	2 (2)	1 (1)	2 (2)	9 (9)	0 (0)	72 (72)	大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数 6人		
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	3 (3)	2 (2)	1 (1)	2 (2)	8 (8)	/	/	/			
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)						
小計（a～b）	3 (3)	2 (2)	1 (1)	2 (2)	8 (8)						
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)						
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)						
計（a～d）	4 (4)	2 (2)	1 (1)	2 (2)	9 (9)						
健康科学部 リハビリテーション学科 作業療法専攻		4 (4)	0 (0)	3 (3)	3 (3)	10 (10)	0 (0)	72 (72)		大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数 6人	
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	4 (4)	0 (0)	3 (3)	3 (3)	10 (10)	/	/	/			
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)						
小計（a～b）	4 (4)	0 (0)	3 (3)	3 (3)	10 (10)						
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)						
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)						
計（a～d）	4 (4)	0 (0)	3 (3)	3 (3)	10 (10)						
教育・心理学部 こども学科		6 (4)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	10 (8)	0 (0)	42 (42)	令和6年5月名称変更届出（予定） 大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数 6人		
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	6 (4)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	10 (8)	/	/	/			
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)						
小計（a～b）	6 (4)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	10 (8)						
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)						
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)						
計（a～d）	6 (4)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	10 (8)						
分											

既設	福祉経営学部医療・福祉マネジメント学科 (通信教育)			11 (12)	0 (3)	3 (3)	12 (12)	26 (30)	2 (5)	56 (56)	大学設置基準別表第一に定める 基幹教員数の四分の三の数 16人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの			11 (12)	0 (3)	3 (3)	12 (12)	26 (30)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）			0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a～b）			11 (12)	0 (3)	3 (3)	12 (12)	26 (30)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）			0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）			0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a～d）			11 (12)	0 (3)	3 (3)	12 (12)	26 (30)			
	全学教育センター			0 (1)	2 (1)	3 (3)	1 (1)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの			0 (1)	2 (1)	3 (3)	1 (1)	6 (6)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）			0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
設	小計（a～b）			0 (1)	2 (1)	3 (3)	1 (1)	6 (6)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）			0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）			0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a～d）			0 (1)	2 (1)	3 (3)	1 (1)	6 (6)			
	計			97 (97)	35 (42)	36 (35)	39 (41)	207 (215)	7 (9)	— (—)	
	合 計			107 (103)	39 (46)	37 (36)	39 (41)	222 (226)	7 (9)	— (—)	
	職 種			専 属				そ の 他			
	事 務 職 員			105人 (105)				47人 (50)			
	技 術 職 員			0 (0)				0 (0)			
	図 書 館 職 員			2 (1)				0 (2)			
分	そ の 他 の 職 員			0 (0)				0 (0)			
	指 導 補 助 者			0 (0)				0 (0)			
	計			107 (106)				47 (52)			
	校 舎 敷 地			229,541.47㎡				0㎡			
	そ の 他			35,345.69㎡				0㎡			
	合 計			264,887.16㎡				0㎡			
	校 舎			78,969.05㎡ (78,969.05㎡)				0㎡ (0㎡)			
	教 室 ・ 教 員 研 究 室			388室				教 員 研 究 室			
	教 室			388室				教 員 研 究 室			
	計			107 (106)				47 (52)			
校地等	区 分			専 用				共 用			
	校 舎 敷 地			229,541.47㎡				0㎡			
	そ の 他			35,345.69㎡				0㎡			
	合 計			264,887.16㎡				0㎡			
校 舎			専 用				共 用				
校 舎			78,969.05㎡ (78,969.05㎡)				0㎡ (0㎡)				
教 室 ・ 教 員 研 究 室			388室				教 員 研 究 室				
教 室			388室				教 員 研 究 室				
計			107 (106)				47 (52)				
図書・設備	新設学部等の名称			図書 〔うち外国書〕冊				学術雑誌 〔うち外国書〕種			
	工学部工学科			11,147 [1,002] (10,552 [1,727])				6,630 [4876] 6,630 [4876]			
	計			11,147 [1,002] (10,552 [1,727])				6,630 [4876] 6,630 [4876]			
	スポーツ施設等			3778.13㎡				403.01㎡			
スポート施設等			3778.13㎡				403.01㎡				
スポート施設等			3778.13㎡				403.01㎡				
スポート施設等			3778.13㎡				403.01㎡				
スポート施設等			3778.13㎡				403.01㎡				
スポート施設等			3778.13㎡				403.01㎡				
スポート施設等			3778.13㎡				403.01㎡				
スポート施設等			3778.13㎡				403.01㎡				
スポート施設等			3778.13㎡				403.01㎡				
スポート施設等			3778.13㎡				403.01㎡				
スポート施設等			3778.13㎡				403.01㎡				
スポート施設等			3778.13㎡				403.01㎡				
スポート施設等			3778.13㎡				403.01㎡				
スポート施設等			3778.13㎡				403.01㎡				
スポート施設等			3778.13㎡				403.01㎡				
スポート施設等			3778.13㎡				403.01㎡				
スポート施設等			3778.13㎡				403.01㎡				
スポート施設等			3778.13㎡				403.01㎡				
スポート施設等			3778.13㎡				403.01㎡				
スポート施設等			3778.13㎡				403.01㎡				
スポート施設等			3778.13㎡				403.01㎡				
スポート施設等			3778.13㎡				403.01㎡				
スポート施設等			3778.13㎡				403.01㎡				
スポート施設等			3778.13㎡				403.01㎡				
スポート施設等			3778.13㎡				403.01㎡				
スポート施設等			3778.13㎡				403.01㎡				
スポート施設等			3778.13㎡				403.01㎡				
スポート施設等			3778.13㎡				403.01㎡				
スポート施設等			3778.13㎡				403.01㎡				
スポート施設等			3778.13㎡				403.01㎡				
スポート施設等			3778.13㎡				403.01㎡				
スポート施設等			3778.13㎡				403.01㎡				
スポート施設等			3778.13㎡				403.01㎡				
スポート施設等			3778.13㎡				403.01㎡				
スポート施設等			3778.13㎡				403.01㎡				
スポート施設等			3778.13㎡				403.01㎡				
スポート施設等			3778.13㎡				403.01㎡				
スポート施設等			3778.13㎡				403.01㎡				
スポート施設等			3778.13㎡				403.01㎡				
スポート施設等			3778.13㎡				403.01㎡				
スポート施設等			3778.13㎡				403.01㎡				
スポート施設等			3778.13㎡				403.01㎡				
スポート施設等			3778.13㎡				403.01㎡				
スポート施設等			3778.13㎡				403.01㎡				
スポート施設等			3778.13㎡				403.01㎡				
スポート施設等			3778.13㎡				403.01㎡				
スポート施設等			3778.13㎡				403.01㎡				
スポート施設等			3778.13㎡				403.01㎡				
スポート施設等			3778.13㎡				403.01㎡				
スポート施設等			3778.13㎡				403.01㎡				
スポート施設等			3778.13㎡				403.01㎡				
スポート施設等			3778.13㎡				403.01㎡				
スポート施設等			3778.13㎡				403.01㎡				
スポート施設等			3778.13㎡				403.01㎡				
スポート施設等			3778.13㎡				403.01㎡				
スポート施設等			3778.13㎡				403.01㎡				
スポート施設等			3778.13㎡				403.01㎡				
スポート施設等			3778.13㎡				403.01㎡				
スポート施設等			3778.13㎡				403.01㎡				
スポート施設等			3778.13㎡				403.01㎡				
スポート施設等			3778.13㎡				403.01㎡				
スポート施設等			3778.13㎡				403.01㎡				
スポート施設等			3778.13㎡				403.01㎡				
スポート施設等			3778.13㎡				403.01㎡				
スポート施設等			3778.13㎡				403.01㎡				
スポート施設等			3778.13㎡				403.01㎡				
スポート施設等			3778.13㎡				403.01㎡				
スポート施設等			3778.13㎡				403.01㎡				
スポート施設等			3778.13㎡				403.01㎡				
スポート施設等			3778.13㎡				403.0				

既設大学等の状況	大 学 等 の 名 称	日本福祉大学							
	学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所 在 地
		年	人	年次人	人		倍		
	社会福祉学部	4	400	40	1,680		0.71	昭和32年度	愛知県知多郡美浜町大字奥田字会下前35番6
	社会福祉学科	4	400	40	1,680	学士 (社会福祉学)	0.71		
	経済学部	4	200	—	800		1.01		
	経済学科	4	200	—	800	学士 (経済学)	1.01	昭和51年度	愛知県東海市大田町下浜田1071番
	健康科学部	4	220	—	880		0.76	平成20年度	愛知県半田市東生見町26番地2
	リハビリテーション学科	4	120	—	480	学士 (健康科学)	0.87	平成20年度	同上
	理学療法学専攻	4	40	—	160	学士 (健康科学)	1.06	平成20年度	同上
	作業療法学専攻	4	40	—	160	学士 (健康科学)	0.95	平成20年度	同上
	介護学専攻	4	40	—	160	学士 (健康科学)	0.58	平成20年度	同上
	福祉工学科	4	100	—	400	学士 (健康科学)	0.63	平成20年度	同上
	教育・心理学部	4	315		1,260		0.71	平成20年度	愛知県知多郡美浜町大字奥田字会下前35番6
	子ども発達学科	4	120	—	480	学士 (子ども発達)	0.53	平成20年度	同上
	学校教育学科	4	95	—	380	学士 (学校教育)	0.72	令和6年度	同上
	心理学科	4	100	—	400	学士 (心理学)	1.04	平成20年度	同上
	国際学部	4	80	—	320		0.67	平成20年度	愛知県東海市大田町下浜田1071番
	国際学科	4	80	—	320	学士 (国際学)	0.67	平成20年度	同上
	看護学部	4	100		400		1.04	平成27年度	愛知県東海市大田町下浜田1071番
	看護学科	4	100	—	400	学士 (看護学)	1.04	平成27年度	同上
	スポーツ科学部	4	180	—	720		1.01		
	スポーツ科学科	4	180	—	720	学士 (スポーツ科学)	1.01	平成29年度	愛知県知多郡美浜町大字奥田字会下前35番
	福祉経営学部	4	800	400	4,000		1.22	平成15年度	愛知県知多郡美浜町大字奥田字会下前35番6
	医療・福祉マネジメント学科（通信教育）	4	800	400	4,000	学士 (福祉経営学)	1.22	平成15年度	同上
既設大学等の状況	大 学 等 の 名 称	日本福祉大学大学院							
	学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所 在 地
		年	人	年次人	人		倍		
	社会福祉学研究科 心理臨床専攻 修士課程	2	10	—	20	修士 (心理臨床)	1.10 1.05	平成15年度	愛知県名古屋市中区千代田五丁目22番35号
	社会福祉学専攻 修士課程（通信教育）	2	30	—	60	修士 (社会福祉学)	1.11	平成16年度	同上
	医療・福祉マネジメント研究科						0.55		
	医療・福祉マネジメント専攻修士課程	2	30	—	60	修士 (医療・福祉マネジメント)	0.55	平成21年度	愛知県名古屋市中区千代田五丁目22番35号
	国際社会開発研究科 国際社会開発専攻 修士課程（通信教育）	2	25	—	50	修士 (開発学)	1.04 1.04	平成14年度	愛知県名古屋市中区千代田五丁目22番35号
	看護学研究科 看護学専攻 修士課程	2	10	—	20	修士 (看護学)	0.50 0.50	令和2年度	愛知県東海市大田町下浜田1071番

既設大学等の状況	スポーツ科学研究科 スポーツ科学専攻 修士課程	2	10	—	20	修士 (スポーツ科学)	0.55 0.55	令和3年度	愛知県知多郡美浜町 大字奥田字会下前35番 6	
	福祉社会開発研究科 社会福祉学専攻 博士課程	3	8	—	24	博士 (社会福祉学)	1.71 2.00	平成19年度	愛知県名古屋市中区 千代田五丁目22番35号	
	福祉経営専攻 博士課程	3	2	—	6	博士 (福祉経営)	1.16	平成19年度	同上	
	国際社会開発専攻 博士課程(通信教育)	3	4	—	12	博士 (開発学)	1.41	平成19年度	同上	
附属施設の概要										

(注)

- 1 共同学科の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「新設分」及び「既設分」の備考の「大学設置基準別表第一イ」については、専門職大学にあっては「専門職大学設置基準別表第一イ」、短期大学にあっては「短期大学設置基準別表第一イ」、専門職短期大学にあっては「専門職短期大学設置基準別表第一イ」にそれぞれ読み替えて作成すること。
- 3 「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 4 私立の大学の学部又は短期大学の学科の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室・教員研究室」、「図書・設備」及び「スポーツ施設等」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室・教員研究室」、「図書・設備」、「スポーツ施設等」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 6 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 7 空欄には、「—」又は「該当なし」と記入すること。

教育課程等の概要

(工学部工学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要 授業 科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹) 助手を 除く (教員 以外の 教員	
総合基礎科目	国際コミュニケーションⅠ	1前			1			○							6	共同
	国際コミュニケーションⅡ	1後			1			○							6	
	心理学	1前			2		○								1	
	社会学	1前			2		○								1	
	経済学	1前			2		○			1					1	共同
	憲法	1後			2		○								1	
	倫理学	1後			2		○								1	
	健康科学概論	1前			1		○			1					4	
	自然科学概論	1後			2		○			1						共同
	情報処理演習	1前	2					○							1	
	スポーツと健康Ⅰ	1前			1			○							2	
	スポーツと健康Ⅱ	1後			1			○							2	
	国際理解	1通			4		○								1	メディア
	日本福祉大学の歴史	1後			2		○								1	
	こころとからだ	1前			2		○								1	
	福祉社会入門	1前			2		○								1	
	視覚障害者支援論	1前			2		○								1	メディア
	ろう文化と手話	1前			2		○								1	
	地震と減災社会	1前			2		○			1						
	聴覚障害者の理解と支援	1前			1		○								1	
	ふくしとフィールドワーク	1前			2		○								1	メディア
	知多半島のふくし	2後			2		○								1	
	ふくしと減災コミュニティ	2後			2		○								1	
	ふくしフィールドワーク実践	3前・後			2			○							6	
	小計（24科目）			2	42	0				2	2	0	0	0	26	
専門基礎科目	基礎数学Ⅰ	1前	○	2				○		1						共同
	基礎数学Ⅱ	1後			2			○		1						
	AI建築入門	1後			1			○		2	1					
	確率統計学演習	2前・2後			2			○		2						
	社会調査法	3前			2		○								1	共同
	情報数学Ⅰ	1後	○		2		○			1						
	情報数学Ⅱ	2前	○		2		○				1					
	情報処理Ⅰ	1前	○		2			○		1						
	情報処理Ⅱ	1後	○		2			○							1	
	情報処理Ⅲ	2前	○		2			○							1	共同
	福祉情報処理	2後	○		2			○		1						
	オペレーティングシステム演習	1前	○		1				○		1					
	論理回路	3前	○		2		○			1						
専門科目	建築デザイン入門	1前・1後			2		○				2	1				共同
	環境建築入門	1前・1後			2		○			2	1					共同
	小計（15科目）	—		2	26	0		—		6	4	1	0	0	3	
	アシスティブテクノロジーⅠ	1後	○		2		○			1						共同
	キャリア開発	3前			2		○			1						
	キャリア研究	3前			2		○			1					1	
	卒業研究Ⅰ	3前	○	2				○		4	4	1				
	AI建築演習	3後			2			○		2	1					
	情報・建築アントレプレナーシップセミナー	3後			2		○				1	1				
	卒業研究Ⅱ	3後	○	2				○		7	4	1				
	卒業研究Ⅲ	4通	○	4				○		7	4	1				
	プログラミング演習Ⅰ	1前	○		2			○		1						共同
	プログラミング演習Ⅱ	1後	○		2			○		1						
	コンピュータシステムⅠ	1後	○		2			○		1						
	コンピュータシステムⅡ	2前	○		2			○		1						
	力学基礎	2前	○		2			○			1					
	ユーザインタフェースⅠ	2前	○		2			○		1						
	ユーザインタフェースⅡ	2前	○		2			○		1						
	ITビジネス論	2前	○		2			○		1						
	データ構造とアルゴリズムⅠ	2前	○		2			○		1						
	オブジェクト指向プログラミング演習Ⅰ	2前	○		2				○	1						
	オブジェクト指向プログラミング演習Ⅱ	2前	○		2				○	1						
	福祉用具演習	2前	○		1				○	1						
	情報アクセシビリティ	2後	○		2		○			1						
	リハビリテーション工学	2後	○		2		○			1						
	アシスティブテクノロジーⅡ	2後			2		○								2	
	人工知能Ⅰ	2後	○		2		○			1						共同
	システム設計論	2後			2		○			1						

専門科目	情報工学専修	UXデザイン演習	2後	○		2		○		1								
		情報工学実験Ⅰ	2後	○		2			○	2								
		情報ネットワークⅠ	2後	○		2		○		1								
		Webプログラミング演習	2後	○		1		○			1							
		データベース演習	2後	○		1		○			1							
		データ構造とアルゴリズムⅡ	3前	○		2		○			1							
		情報ネットワークⅡ	3前	○		2		○			1							
		人工知能Ⅱ	3前	○		2		○			1							
		情報工学実験Ⅱ	3前	○		1			○		1							
		住環境整備	3前	○		2		○			1							
		マルチメディアⅠ	3前	○		2		○				1						
		CAD演習Ⅰ	3前			1			○							1		
		CAD演習Ⅱ	3前			1			○							1		
		組込みプログラミング演習	3後	○		1			○		1							
		モバイルアプリケーション演習	3後			2			○							1		
		情報セキュリティ	3後	○		2		○			1							
		マルチメディアⅡ	3後	○		2		○				1						
		福祉用具プランニング演習Ⅰ	3後	○		1			○		1						1	
		福祉用具プランニング演習Ⅱ	3後			1			○								1	
		情報総合演習	3後			1			○								1	
		マルチメディアとAI	3後	○		2		○			1							
	建築学専修	建築図学	1前	○		2			○		3	3	1			1		共同
		建築学概論	1前	○		2		○					1					共同
		建築材料Ⅰ	1前	○		2		○								1		
		西洋・日本建築史	1前	○		2		○				1	1					共同
		建築製図演習	1後	○		4			○				1					
		建築計画Ⅰ	1後	○		2		○				1	1					共同
		建築フィールドワーク	1後・2後	○		2			○			1	1					共同
		建築人間工学	2前	○		2		○				2				1		共同
		建築デザイン表現演習	2前	○		2			○			1						共同
		建築構造力学	2前	○		2		○			1							
		建築法規	2前	○		2		○								1		
		生態学概論	2前	○		2		○			1							
		建築計画Ⅱ	2前	○		2		○				1						
		建築設計演習Ⅰ	2前	○		4			○			1	1					共同
		エコロジカル建築	2前	○		2		○				1						
		建築材料Ⅱ	2後	○		2		○								1		
		建築構造力学応用	2後	○		2		○			1							
		建築ユニバーサルデザイン論	2後	○		2		○								1		
		建築設計演習Ⅱ	2後	○		4			○			2						共同
		建築生産	2後	○		2		○								1		
		都市計画論	2後	○		2		○				1						
		建築CAD演習	2後	○		2			○							1		
		環境政策論	2後	○		2		○			1							
		都市景観生態学	2後	○		2		○			1							
		近代建築史	2後	○		2		○					1			1		
		ランドスケープ設計演習	2後	○		2			○							1		
		建築測量実習	2通	○		2			○							1		
		建築一般構造	3前	○		2		○			1							
		エコロジカル建築設計演習	3前	○		4			○			1	1					共同
		福祉環境論	3前	○		2		○			1							
		総合BIM演習	3前	○		2			○							1		
		建築防災計画	3前	○		2		○				1						
		都市緑化論	3前	○		2		○				1				1		共同
		福祉住環境計画	3後	○		2		○				1						
		建築設備	3後	○		2		○								1		
		建築一般構造応用	3後	○		2		○			1							
		建築環境工学	3後	○		2		○								1		
		福祉環境設計演習	3後	○		4			○			2						共同
		環境経済学	3後	○		2		○			1							
		ビオトープ計画施工演習	3後	○		4			○			1						
		環境分析評価演習	3後	○		2			○			1						
		造園学	3後	○		2		○				1					3	共同
		環境共生のまちづくり	3後	○		2		○				1				1		共同
		森林保護学	3後	○		2		○				1						
		企業・行政研究	4前	○		2		○				1				1		共同
		ビオトープ研究	4前	○		2		○				1				1		共同
	単位認定科目※	情報技術Ⅰ	1後			2												※単位認定科目 在学中に指定資格を 取得、 またはインターン シップ先を自己開拓 し、 一定の要件を満たした 場合に本人の申請 により大学で修得した 単位として認定する 科目のこと
		情報技術Ⅱ	1後			2												
		情報技術Ⅲ	1後			2												
		情報技術Ⅳ	1後			2												
		キャリア形成Ⅰ	1後			2												
		キャリア形成Ⅱ	1後			2												
		キャリア形成Ⅲ	1後			2												
		キャリア形成Ⅳ	1後			2												
		インターンシップⅠ	2後			1												
		インターンシップⅡ	2後			2												
科目自由		小計（102科目）	—	—	8	197	0	—		9	4	1	0	0	23			
		ビジネススキル	2前・2後				2	○		0	0	0	0	0	1			メディア
		小計（1科目）	—	—	0	0	2	—		0	0	0	0	0	1			
合計（143科目）			—	—	12	265	2	—		10	4	1	0	0	46			

学位又は称号	学士（工学）	学位又は学科の分野	工学関係
卒業要件及び履修方法		授業期間等	
自専修開講科目のうち、必修科目12単位を含め、総合基礎科目10単位以上、専門基礎科目と専門科目あわせて80単位以上修得し、総合基礎科目と専門基礎科目・専門科目あわせて総計124単位以上を修得すること。 （履修科目の登録の上限：48単位（年間））		1学年の学期区分	2学期
		1学期の授業期間	15週
		1時限の授業の標準時間	90分

- (注)
- 学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には，授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
 - 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。
 - 開設する授業科目に応じて，適宜科目区分の枠を設けること。
 - 「主要授業科目」の欄は，授業科目が主要授業科目に該当する場合，欄に「○」を記入すること。なお，高等専門学校の学科を設置する場合は，「主要授業科目」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
 - 「単位数」の欄は，各授業科目について，「必修」，「選択」，「自由」のうち，該当する履修区分に単位数を記入すること。
 - 「授業形態」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。
 - 「授業形態」の欄は，各授業科目について，該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし，専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち，臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を，連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
 - 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員等」は，大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は，「専任教員等」と読み替えること。
 - 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員以外の教員（助手を除く）」は，大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は，「専任教員以外の教員（助手を除く）」と読み替えること。
 - 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し，若しくは変更する場合は，次により記入すること。
 - 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には，当該専門職大学の全課程に係る科目数，「単位数」及び「基幹教員等の配置」に加え，前期課程に係る科目数，「単位数」及び「基幹教員等の配置」を併記すること。
 - 「学位又は称号」の欄には，当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え，当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には，当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え，前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。
 - 高等専門学校の学科を設置する場合は，高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については，備考欄に「☆」を記入すること。

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(健康科学部福祉工学科)																	
科目 区分		授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実験・実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手	基幹（ 助手を 除く） 教員	
総合基礎科目	専修共通	国際コミュニケーションⅠ	1前		1				○							5	共同
		国際コミュニケーションⅡ	1後		1				○							5	
		心理学	1前		2			○								1	
		社会学	1前		2			○								1	
		経済学	1前		2			○			1					1	
		憲法	1前		2			○								1	
		倫理学	1後		2			○								1	
		健康科学概論	1前		1			○			1	1				4	
		自然科学概論	1後		2			○			1	1					
		情報処理演習	1前	2					○							2	
		スポーツと健康Ⅰ	1前		1				○							2	
		スポーツと健康Ⅱ	1後		1				○							2	
		国際理解	1通		4			○								1	
		日本福祉大学の歴史	1後		2			○								1	
		こころとからだ	1前		2			○								1	
		福祉社会入門	1前		2			○								1	
		視覚障害者支援論	1前		2			○								1	
		ろう文化と手話	1前		2			○								1	
		地震と減災社会	1前		2			○			1						メディア メディア メディア メディア メディア
		聴覚障害者の理解と支援	1前		1			○								1	
	ふくしとフィールドワーク	1前		2			○								1		
	知多半島のふくし	2後		2			○								1		
			ふくしと減災コミュニティ	2後			2			○						1	
			ふくしフィールドワーク実践	3後			2				○					2	
		情報英語	3後			1				○		1					
	小計（25科目）		—	—	2	42	0	—			3	2	0	0	0	24	
専門基礎科目	専修共通	基礎数学Ⅰ	1前	○	2				○							1	
		基礎数学Ⅱ	1後		2				○		1					1	
		確率統計学演習	2前・2後		2				○		1						
		社会調査法	3前		2			○								1	
		リハビリテーション論	1後	○	2			○								1	
		医学一般Ⅰ（からだのしくみ）	1前		2			○								1	
	情報工学専修	情報工学入門	1前			2		○			1						
		基礎演習	1前			2			○			1					
		情報処理	1後			2				○			1			1	
		情報数学Ⅰ	1後			2			○			1					
		情報数学Ⅱ	2前			2			○			1					
		健康情報演習A	2前			2				○							
	健康情報演習B	2後			2				○			1					
	論理回路	2前			2			○			1						
バリエーション専修	建築デザイン入門	1前・1後			2				○			1	1			共同	
	環境建築入門	1前・1後			2				○		2	1				共同	
	小計（16科目）		—	—	2	30	0	—			7	3	1	1	0	5	
専門科目	専修共通	福祉用具論	1後	○		2				○		1					
		介護福祉論	1前		2					○						1	
		障害者福祉論	2前		2			○								2	
		地域福祉論Ⅰ	2前		2			○								1	
		キャリア開発	3前		2			○			1					1	
		キャリア研究	3後		2			○			1					1	
		高齢者福祉論	3前		2			○								1	
		卒業研究Ⅰ	3通	○	4					○		6	4	1	1		
		卒業研究Ⅱ	4通	○	4					○		6	5	1	1		1
	情報工学専修	コンピュータシステムⅠ	1後	○		2			○			1					
		プログラミング演習Ⅰ	1前	○		2			○			1					
		プログラミング演習Ⅱ	1後	○		2			○			1					
		人工知能Ⅰ	2後	○		2			○			1					
		力学基礎	2前	○		2			○					1			
		コンピュータシステムⅡ	2前	○		2			○			1					
		データ構造とアルゴリズムⅠ	2前	○		2			○			1					
		リハビリテーション工学	2後	○		2			○			1					
オブジェクト指向プログラミング演習	2前	○		2				○		1							
	データベース	2前		2				○							1		
	システム設計論	2後	○		2			○		1							

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く） 教員以外の教員	
専門科目	情報工学専修	情報ネットワーク	2前	○	2		○			1						共同
		福祉用具演習	2前	○	1			○		1						
		身体機能リハビリテーション	2前	○	2		○				1					
		認知機能リハビリテーション	2後	○	2		○				1					
		福祉用具市場の理解	2後	○	2		○			1					2	
		医療システム開発演習	2後	○	2			○					1			
		Webプログラミング演習	2後	○	1			○			1					
		情報アクセシビリティ	2後	○	2		○			1						
		情報セキュリティ	2後	○	2		○			1						
		人工知能Ⅱ	3前	○	2		○			1						
		組込みプログラミング演習	3後	○	1			○		1						
		データ構造とアルゴリズムⅡ	3前	○	2		○			1						
		生体情報とバイオメカニクス	3前	○	2		○						1			
		リハビリテーションシステム	3後	○	2		○						1			
		マルチメディア	3前		2		○								1	
		マルチメディア演習	3後	○	1			○			1					
		CAD演習Ⅰ	3前		1		○								1	
		CAD演習Ⅱ	3前		1		○								1	
		情報工学実験	3後	○	2			○		2						
		住環境整備・住宅関連機器	3前		2			○							1	
		健康情報実験	3後	○	1			○					1			
		生活支援機器演習	3前		1			○		1						
		生活と情報技術	3後	○	2		○				1					
		福祉用具プランニング演習Ⅰ	3後	○	1			○		1						
		福祉用具プランニング演習Ⅱ	3後		1			○							1	
		健康情報総合演習Ⅰ	3前	○	1			○		1						
		健康情報総合演習Ⅱ	3後	○	1			○			1					
		業界研究	3前	○	1		○			1						
	建築バリアフリー専修	建築計画Ⅰ	1後	○	2		○					1				共同
		建築図学	1前	○	2			○			1				1	
		建築製図演習	1後	○	4			○				1				
		建築学概論	1前	○	2		○			2	3	1				共同
		建築材料Ⅰ	1前	○	2		○			1						
		建築ユニバーサルデザイン論	2後	○	2		○								1	
		建築人間工学	2前	○	2		○				2					共同
		建築デザイン表現演習	2前	○	2			○			1				1	
		建築材料Ⅱ	2後	○	2		○			1						
		建築構造力学	2前	○	2		○			1						共同
		建築構造力学応用	2後	○	2		○			1						
		建築測量実習	2通	○	2			○							1	
		建築CAD演習	2後	○	2			○							1	共同
		環境政策論	2後	○	2		○			1						
		建築法規	2前	○	2		○			1						
		生態学概論	2後	○	2		○			1						共同
		建築計画Ⅱ	2前	○	2		○				1					
		建築設計演習Ⅰ	2前	○	4			○			1	1				
		建築設計演習Ⅱ	2後	○	4			○			2				1	共同
		建築生産	2後	○	2		○								1	
		都市計画論	2後	○	2		○				1					
		エコロジカル建築	2前	○	2		○				1				3	共同
		都市景観生態学	2後	○	2		○			1						
		森林保護学	3後	○	2		○									
		福祉住環境計画	3前	○	2		○				1					共同
		建築設備	3後	○	2		○								1	
		建築一般構造	3前	○	2		○			1						
		建築一般構造応用	3後	○	2		○			1						共同
		建築環境工学	3後	○	2		○								1	
		エコロジカル建築設計演習	3前	○	4			○			1	1			2	
		福祉環境設計演習	3後	○	4			○			2					共同
		環境経済学	3前	○	2		○			1						
		建築防災計画	3前	○	2		○				1					
		ビオトープ計画施工演習	3後	○	4			○		1						共同
		環境分析評価演習	3後	○	2			○		1						
		造園学	3後	○	2		○			1					3	
		都市緑化論	3前	○	2		○				1				1	共同
		環境共生のまちづくり	3後	○	2		○				1				2	
		企業・行政研究	4前	○	2		○			1					1	
		ビオトープ研究	4前	○	2		○			1					1	共同

科目 区分		授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹 教員（除く 助手以外の 教員）	
専門科目	単位 認定 科目※	情報技術Ⅰ	1後			2											※単位認定科目 在学中に指定資格を取得、またはインターンシップ先を自己開拓し、一定の要件を満たした場合に本人の申請により大学で修得した単位として認定する科目のこと
		情報技術Ⅱ	1後			2											
		情報技術Ⅲ	1後			2											
		情報技術Ⅳ	1後			2											
		キャリア形成Ⅰ	1後			2											
		キャリア形成Ⅱ	1後			2											
		キャリア形成Ⅲ	1後			2											
		キャリア形成Ⅳ	1後			2											
		インターンシップⅠ	2後			1											
		インターンシップⅡ	2後			2											
		小計（98科目）	—	—	8	190	0	—			7	5	1	1	0	25	
科目 自由		ビジネススキル	2前・2後				2	○								1	メディア
		小計（1科目）	—	—	0	0	2	—			0	0	0	0	0	1	
合計（139科目）			—	—	12	262	2	—			7	5	1	1	0	49	
学位又は称号				学士（健康科学）				学位又は学科の分野				工学関係、社会学・社会福祉学関係					
卒業要件及び履修方法									授業期間等								
自専修開講科目のうち、必修科目12単位を含め、総合基礎科目10単位以上、専門基礎科目と専門科目あわせて80単位以上修得し、総合基礎科目と専門基礎科目・専門科目あわせて総計124単位以上を修得すること。 （履修科目の登録の上限：48単位（年間））									1学年の学期区分						2学期		
									1学期の授業期間						15週		
									1時限の授業の標準時間						90分		

- （注）
- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
 - 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
 - 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
 - 「主要授業科目」の欄は、授業科目が主要授業科目に該当する場合、欄に「○」を記入すること。なお、高等専門学校の学科を設置する場合は、「主要授業科目」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
 - 「単位数」の欄は、各授業科目について、「必修」、「選択」、「自由」のうち、該当する履修区分に単位数を記入すること。
 - 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
 - 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
 - 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員等」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員等」と読み替えること。
 - 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員以外の教員（助手を除く）」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員以外の教員（助手を除く）」と読み替えること。
 - 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
（１）各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」を併記すること。
（２）「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
（３）「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。
 - 高等専門学校の学科を設置する場合は、高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については、備考欄に「☆」を記入すること。

授 業 科 目 の 概 要				
(工学部工学科)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
総合基礎科目	国際コミュニケーションⅠ		日常とビジネスの場面で起こる対話を通じて英会話の基礎を学ぶ。 基本的な英文法を理解し、コミュニケーションに応用できるようにする。	
	国際コミュニケーションⅡ		日常とビジネスの場面で起こる対話を通じて英会話の基礎を学ぶ。 基本的な英文法を理解し、コミュニケーションに応用できるようにする。	
	心理学		科学としての心理学の方法について学び、人間の心理学的理解を深める。さらに、福祉領域にとって重要な発達心理学的観点から乳幼児期から老年期にいたる人間の発達について概観する。これらの基礎知識をもとに、人間理解のための心理学的理論と技法や心理的援助技法についても学ぶ。	
	社会学		この授業では家族や地域、コミュニケーション感覚、メディアなど、さまざまな領域を横断的にみていきます。具体的なテーマは下の「授業のながれ」の通りで、広く浅くという感じになります。いまの社会が抱える困難な問題がどんなふうにつくられ、どんな方向がこれから必要なかなど、戦後の歴史のなかでいまを位置づけ、具体的な問題と理論的な考え方をつなげて考えていきます。最初の範囲では戦後の社会・文化史という中でバックグラウンド的な知識を押さえ、そこから個別の諸問題に眼を向けしていきます。身近な柔らかな題材も多く使い、映像も毎回使いながら、かたい話もありますがわかりやすく進めていきます。	
	経済学		これからの社会を考えたうえで経済学の考え方は必要不可欠なツールとなります。この講義では、経済学のまづはその歴史にはじまり、経済のしくみなどの基本的な事柄、そして経済学理論の初歩的事項についてもできるだけ分かりやすく説明していきます。そして経済学からの考え方を少しでも身につけてもらえればと考えます。	共同
	憲法		憲法学の目的は「憲法に何が書いてあるか」を知ることではありません。日本国憲法を含め世界中の「憲法」には、「なぜこのように書かれたのか」という理由があります。憲法学とは、「憲法にはなぜこのようなルールが書かれているか」を理解する学問です。そこでこの講義では実際の憲法問題を素材として取り上げ、憲法がそれをどのように解決しようとしているのかを学びます。	
	倫理学		現代社会を振り返ってみると、規範意識や道徳意識は衰退しているように見える。しかしその一方、研究倫理、企業倫理など様々な分野で倫理意識の向上が求められている。本講義では、現代社会においてその解決が求められる倫理的な問題について考察していく。前半では、倫理学の基本的な理論を、後半では、生命倫理や環境倫理、情報倫理や科学技術の倫理などの応用倫理について考察する。	
	健康科学概論		健康科学部では、何を、どのように学ぶことができるのかを理解するために、専門分野を概観し、それぞれの専門が健康とどのように関わっているのか学ぶ。具体的には、多様化する健康の概念について学んだ上で、学部理念、教育目標、育成する人材像、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーを理解する。さらに、各専攻・専修で育成する人材のコンピテンシー（行動特性・資質）を知り、健康との関わりを理解する。この知識は、社会に出てから必要となる多職種連携の際の基礎知識となる。	共同
	自然科学概論		本講義は人間の知り得た世界像を概観する。また、それらを研究してゆくために必要とされる観測方法などについても概観する予定である。本講義を通じて、地球の上にいる自分と宇宙/世界との相対的な大きさを捉え、世界の中の自分を意識できるようにすることを目指す。	
	情報処理演習		あらゆる場面において、人に自分の考えをわかりやすく伝えることは重要である。図やグラフによるわかりやすい資料作成、論理的で説得力のある資料作成は、そのために必須となるもの、これらを数値・データサイエンス・AIに関する話題とともに体験的・統合的に学習していく。大学の情報環境、インターネット環境についての理解も深め、学習や各種活動のためのリソースとして活用していくための基礎を築く。	
	スポーツと健康Ⅰ		本講義では、半期で4種目のスポーツを実施する。各スポーツでは種目ごとに基礎的技術を身に付けられるようにグループで協力して取り組む。また、合同演習では中国武術を実施し、技術の良し悪しを競うのではなく、基礎武術の動作を頭と体で理解することを学習の目的とする。護身術として、かつ健康維持の手段として日常でも活用できるように授業に取り組む。	
	スポーツと健康Ⅱ		本講義では、半期で4種目のスポーツを実施する。各スポーツでは種目ごとに基礎的技術を身に付けられるようにグループで協力して取り組む。また、合同演習では中国武術を実施し、技術の良し悪しを競うのではなく、基礎武術の動作を頭と体で理解することを学習の目的とする。護身術として、かつ健康維持の手段として日常でも活用できるように授業に取り組む。	
	国際理解		この科目は、国内外の研修先で10月から2月までに実施される一連のフィールドスタディプログラム（事前学習・現地でのフィールドワーク・帰国後の報告書作成）で構成される、国際福祉開発学部の演習科目です。2022年度の研修先は、フィリピン、マレーシア、カンボジア、アメリカ、日本を予定しています。なお、現地の治安状況等で中止・変更する場合があります。	
	日本福祉大学の歴史		建学の精神と本学の研究・教育の歴史と展望を知り、自分がどう学びどう成長していくか考えます。戦後日本の大学教育の中で本学が創設されたことの歴史的意義、および(1)本学がどんな時代背景の中で福祉の教育・研究に取り組んできたのか、(2)広義の福祉にかかわる人材をいかに広く送りだしてきたのか、(3)今後どのような人材養成を目指すかとしているのかについて、キャリア教育の一環として学んでいきます。	メディア
	こころからだ		この講義では、青年期の複雑な「こころからだ」をテーマとし、大学生活でどのような点に注意して生活し学べばいいのかを考えます。心身ともに健康で、安心できる大学生活、色々な悩みや将来の不安に正面から向き合える大学生活、そして賢い生活者として充実した大学生活を送るために必要な事項について考え理解を深めます。未知な知識を学ぶ以上に、大学生としての生き方を考えてもらいます。	メディア
	福祉社会入門		「福祉」という言葉は、「しあわせ」を意味します。その英文であるウェルフェアは、「よりよく生きる」という意味です。福祉社会は、「いのち」「いきがい」を大切に、人がゆたかに生きていくことを支える社会です。福祉社会を実現するためには、社会福祉をはじめとして、さまざまな分野の研究や実践が力を含わせる必要があります。これを「人間福祉複合」と呼んでいます。「福祉社会入門」では、「広がるふくし」の観点から「福祉」への接近について学びます。	メディア
	視覚障害者支援論		視覚障害者（児）に対する支援方法を学びながら、個人差の多様性について理解を深め、対応できるスキルを習得する。個人差の多様性という観点から、バリアフリー、ユニバーサルデザイン、支援などの用語についての本質を考える。	
	ろう文化と手話		一口に聴覚障害者といっても、文化も言語も多様です。聴覚障害者のなかにも音声言語で生きる人たちもいれば、手話言語で生きる人たちもいます。この授業では、手話による挨拶や自己紹介、そして簡単な会話ができるようになることをめざします。また、ろう文化について、具体例から学びます。言語や文化が異なっている人たちとも、互いを認め共生できる社会を構築するために、必要となる視点について考えます。	
	地震と減災社会		災害について客観的な事実だけでなく、災害への具体的な対策を学ぶことを目的としている。過去の災害、地震や津波について理解するために必要な知識を学び、さらに、災害イメージネーションを持たせ、災害が発生したときに適切に行動するための意識を付けるを目的とする。被災者としてだけでなく、救済者など当事者意識を付けさせる。	メディア
	聴覚障害者の理解と支援		授業は、講義と実技方法の理解習得ができる内容で進める。講義では「聴覚障害者の理解・関わり方」「情報（講義）保障」「聴覚障害者はコミュニケーション障害」などを学ぶ。実技の理解習得では、「ノートテイクの方法」「パソコンテイクの方法」を身につけられるようにし、実際に支援活動ができる方法を身につける。	メディア
	ふくしとフィールドワーク		1年次に各学部で実施される「ふくしコミュニティプログラム」についての概説を行うことを通して、地域と関わるフィールドワークの必要性について考えます。そして、ふくし（広義の福祉）の視点でフィールドワークを行う学生にとっての学内、学外の資源を知り、フィールドワークの多様な方法を理解します。その上で、実際にフィールドワークを行う際に必要とされる作法、記録やデータの扱いの方法とまとめ方、リスマネジメントについて学びます。	メディア
	知多半島のふくし		知多半島の地域特性を理解し、ふくしに携わる人材・職業を知り、その具体的な活動や実践を通して、現状と課題を学習する。またその根底に多職種連携があることやその必要性について理解する。「ふくし」に携わる人材・職種とは、自分たちのまちを暮らしやすくしていくために働きかけている人たちと、広く定義しておく。そのうえで大学COC事業が学部横断的かつ学則上の教育目標に重なることから、それぞれの学部の特性を伝えることで、日本福祉大学で学ぶという意識や視野、メッセージを伝える。	メディア

総合基礎科目		ふくしと減災コミュニティ		日本福祉大学は、制度中心の従来の「社会福祉」の枠を広げて、多領域が関連・連携しあう広い意味の福祉を「ふくし」ととらえて、様々な分野で「ふくし」の視点で活躍できる人材「ふくし・マイスター」を全学部共通の取り組みとして養成している。本教科「ふくしと減災コミュニティ」は、このふくし・マイスターを養成するための地域志向科目の一つとして位置づけられていて、オンデマンド形式で全学共通に履修できる。	メディア
		ふくしフィールドワーク実践		本科目では、知多半島の地域課題解決に求められる多職種・多分野連携のあり方、その中で地域の各主体の役割などを学びます。地域社会での体験学習を重視し、専門の異なる学生がグループで学び合う多職種連携教育Inter Professional Learning(IPL)の方法を採るのが特徴です。 「事前学習・フィールドワーク・事後学習」を集中的に展開して学びを深め「地域を創造していく力」を身につけるために、夏休みに集中講義として開講する。 本学の全学部の学生が履修できるプロジェクト科目です。本プロジェクトでは、地域包括ケアを支えるために多職種が連携して課題に取り組む活動に将来参加する基礎となることを目的とします。そのために、地域で暮らし、時にはケアを利用する方が地域社会の主人公であるという視点で企画しています。半田市社会福祉協議会や、地域で暮らすゲスト講師、さまざまな機関と協力して準備しています。事前学習では、地域の特性、ゲスト講師の方や協力機関の特徴と役割について学びます。フィールドワークの際は、ゲスト講師と一緒に半田市の街を歩き、活動に参加します。事後学習（振り返り）では、フィールドワークで行動をともにした、専門の異なる学生同士がディスカッションすることで相互理解を深め、学んだ内容を振り返り発表しあいます。そして数学理論の根底にある考え方も習得する。	メディア
専門基礎科目	専修共通	基礎数学Ⅰ	○	高校までの学習内容を基本的原理を理解しながら、基本的知識を身につける。さらに問題演習することにより、理解を深める。そして数学理論の根底にある考え方も習得する。	
		基礎数学Ⅱ		情報工学：教科書の問題をすべて解いてみるために、ノートを用意しましょう。数学は公式を覚えるものではありません。なぜその公式が成り立つのかを理解することが重要で、より良い理解と知識の定着につながります。毎回の授業でやった内容をしっかりと自宅で演習することが大切です。さらに講義では数学とほかの自然科学との関連、創造性、応用などについても触れていきます。 建築学：初等的な解析学の基礎である微分法と積分法を学びます。2年次に学ぶ建築構造力学及び築構力学学応用では、外力を受けた架構の部材にどのような力が生じるかを解くことを目的としています。その外力の一つに地震力がありますが、そこには地震加速度が関わり、位置、速度、加速度の関係を「微分と積分」が驚いています。外力を受けた部材は変形しますが、「微分と積分」を用いてその変形量を求めることができます。建築構造力学・応用に役立つ微分・積分を中心として講義が編成します。	
		AI建築入門		AI、ICT、データサイエンス、プログラミング、建築、統計を専門とする教員のオムニバス演習により、情報と建築の専門分野を学ぶ上での基礎的な手法を演習形式で身につける。また、この演習を通して、今後進む分野を選択するためのきっかけとする。さらに、情報と建築の融合による新しいテーマの可能性や先進的な事例を把握し、議論する。	共同
		確率統計学演習		基礎統計量や基本的な統計解析の方法などを統計解析ソフトを使った問題演習を通して学び、統計学の基礎について理解する。情報数学2とリンクする内容も含んでいる。	共同
		社会調査法		社会調査とは社会で生じる出来事についてフィールド調査により統計的な推論のデータを得ることを目的とした調査のことである。この講義では現実の社会からデータを収集して社会現象を分析しようとする研究を想定し、社会調査の基本を学ぶ。	
	情報工学専修	情報数学Ⅰ	○	人工知能などの専門科目の基礎として線型代数の学習を行う。この授業の目標は、ベクトル、行列と行列式、逆行列などの線型代数の基礎的な概念や演算能力を習得することである。	
		情報数学Ⅱ	○	人工知能などの専門科目の基礎として、微分積分および確率・統計の学習を行う。この授業の目標は、常微分、偏微分、確率変数と確率分布など、機械学習を理解する上で必要な数学的概念や演算能力を習得することである。（このまま）	
		情報処理Ⅰ	○	大学での講義、演習・実験等を受講するにあたって、必要不可欠となる基礎的な学修技能(スタディ・スキル)の修得をめざします。具体的には講義の受け方、レポートの書き方、および発表(プレゼンテーション)の方法等をディスカッション等を通して学びます。	
		情報処理Ⅱ	○	情報工学の基礎をしっかりと理解するための科目である。コンピュータのハードウェア、ソフトウェア、情報ネットワーク、セキュリティ、情報工学に必要な数学などについて広く学ぶ。国家試験の情報処理技術者試験の一区区分であるITパスポート資格の一部に対応する。事前にテキストで学習し、講義中に行う発表やディスカッションに積極的に参加するようにされたい。テキストにも出てくる確率統計、基底変換などの数学については、高校数学の数学I、II、Aをベースにする。自信のない人は復習しておくことを強く勧める。	
		情報処理Ⅲ	○	情報処理Ⅰ・Ⅱとともに情報工学の基礎を理解するための科目である。情報工学を深く学ぶための橋渡しとして情報ネットワークをはじめとする情報技術の原理について理解する。また、対話型AIなどの新しい情報技術を体験しながら使い方や長所・短所を学ぶ。	
		福祉情報処理	○	本演習では、自動具類、スイッチや入力デバイス等の製作を通して、ものづくりに関する知識と工法、基本的な計測機器の使い方を修得する。また、事例検討やフィールドワーク等を通して、支援機器やテクノロジーを有効に活用するための適切な視点を養う。（この科目は、機器設計、機器製造等の経験を有する教員が、ものづくりに関する知識と工法について指導する。）	
		オペレーティングシステム演習	○	デジタル社会におけるIT基盤として、Webサーバなどで利用されているOSであるLinux/Unixの基礎知識と操作方法を学習する。初歩的なコマンドの操作から始まり、様々なコマンドの組み合わせやシェルスクリプト作成などの応用的な技能の習得を目標とする。	
		論理回路	○	自動車、エアコン、テレビ、ビデオ、スマートフォン、パソコンなど多くの製品に論理回路が使用されている。デジタル機器の機能は0、1の2値で構成されている。本講義では、その動作原理について、基礎的な2進数表現、論理代数、論理関数を学んだ上で、論理回路を理解し作成できるようにする。	
	建築学専修	建築デザイン入門		優れた建築デザインを知る。建築を表現するための技法を学ぶ。製図、スケッチ、模型制作の実習を行い、建築を表現するための手法を身につける。	共同
		環境建築入門		環境共生分野の教員のオムニバス演習により、環境共生の専門分野を学ぶ上での基礎的な手法を演習形式で身につける。また、この演習を通して、今後進む分野を選択するためのきっかけとする。さらに、地域の環境保全に関する現状を把握し、議論する。	共同
専門科目	専修共通	アシスティブテクノロジーⅠ	○	福祉用具は「何らかの障害がある人の生活を支援するテクノロジー」を意味する。よって、単に身体機能のみに着目するだけでなく、利用される環境や利用者個々人の生活に適合していることが重要である。本講義では車いす、自助具、コミュニケーション機器等、さまざまな福祉用具の構造や機能を理解した上で、実際の地域生活や活動場面での利用事例や相談導入事例を紹介する。（この科目は、福祉用具の適合相談の経験を有する教員が、福祉用具の種類と構造、および適合支援に関する知識を講義する。）	
		キャリア開発		就職試験対策における、履歴書の書き方、小論文の書き方、面接の受け方とマナーについて学び、社会人としての態度を身につける。	
		キャリア研究		面接・ディスカッション演習を通して対話力を身につける。社会人としての生活リテラシーを見につける。	
		卒業研究Ⅰ	○	卒業研究を行う前に研究に必要なことを学び、演習で確認する。大学教員の研究者としての経験を伝えながら、研究の方法、情報技術に関わる論文講読、データ解析方法、論文執筆方法など演習を交えながら学ぶ。	共同
		AI建築演習		AI、ICT、データサイエンス、プログラミング、建築、統計を専門とする教員のオムニバス演習により、情報と建築の融合分野における特定テーマに対して実践的な分析手法や提案方法を演習形式で身につける。また、この演習を通して、AI、ICT、データサイエンス、プログラミング、建築の視点から課題解決の提案を行うことができる様に。さらに、最先端な取り組みや知見を有する企業や研究機関と連携して、情報と建築の融合による新しいテーマの立案や解決策の提示ができる様に。また、グローバル化を切り口に、起業活動の役割や意義、起業家の資質、そして、実態への理解を深めるための知識(定義・動向・概念・理論)を体系的に示し、起業家教育や政策に求められていることの本質的な課題、情報分野や建築分野における実務的な側面の課題について検討する。	共同
		情報・建築アントレプレナーシップセミナー		本講義では、起業活動と事業創造を起こすアントレプレナー(企業家)に着目し、情報と建築分野におけるアントレプレナーシップ(企業家精神・起業活動)とは何かを解説する。また、グローバル化を切り口に、起業活動の役割や意義、起業家の資質、そして、実態への理解を深めるための知識(定義・動向・概念・理論)を体系的に示し、起業家教育や政策に求められていることの本質的な課題、情報分野や建築分野における実務的な側面の課題について検討する。	共同

専門科目	専修共通	卒業研究Ⅱ	○	人工知能技術を用いたシステム開発や最適化アルゴリズムの提案、Unity開発環境を用いた仮想現実コンテンツや3次元ゲームの開発・評価、WebコンテンツあるいはWebデータベースの開発・評価、通信アプリケーションの開発・評価や通信プロトコル性能の評価、センサーアプリケーションの開発・評価、携帯端末用アプリケーションの開発・評価、支援機器の開発・評価などをテーマとする。卒業研究の活動は授業時間外に各自で時間を確保して行う。授業では、卒業研究の中間報告と情報技術に関する勉強会を行う。	
		卒業研究Ⅲ	○	人工知能技術を用いたシステム開発や最適化アルゴリズムの提案、Unity開発環境を用いた仮想現実コンテンツや3次元ゲームの開発・評価、WebコンテンツあるいはWebデータベースの開発・評価、通信アプリケーションの開発・評価や通信プロトコル性能の評価、センサーアプリケーションの開発・評価、携帯端末用アプリケーションの開発・評価、支援機器の開発・評価などをテーマとする。卒業研究の活動は授業時間外に各自で時間を確保して行う。授業では、卒業研究の中間報告と情報技術に関する勉強会を行う。18月に中間発表会、年度末に最終発表会を行う。	
	情報工学専修	プログラミング演習Ⅰ	○	C言語の基本文法について学習する。まず、C言語の特徴やC言語プログラムの作成手順について説明する。そして、入出力、変数、演算子などを用いた上から順に実行されるC言語のプログラミングについて学習する。さらに、分岐処理や繰返し処理を含むプログラミングについても学習する。最後に、関数を用いた基礎的なプログラミングを通して、メインとサブからなるプログラムを作成する。	
		プログラミング演習Ⅱ	○	プログラミング演習Ⅰで履修したC言語の文法事項の知識をもとに、ポインタやファイルの入出力といったC言語の特徴的な文法事項について学習し、これらを用いたプログラミングの演習を行う。	
		コンピュータシステムⅠ	○	コンピュータにおける情報の表現法やコンピュータハードウェアについて学習する。まず、コンピュータの基本構成について説明する。次に、コンピュータにおける数値や文字のデータ表現、論理演算について解説する。そして、機械語命令の構成やアドレス指定方式、中央処理装置(CPU)の構成やCPUの処理の流れについて説明する。さらに、記憶装置および入出力装置の種類と特徴について解説する。	
		コンピュータシステムⅡ	○	コンピュータの基本ソフトウェアと関わる技術について学習する。まず、コンピュータソフトウェアの構成や分類について説明する。次に、オペレーティングシステム(OS)の役割や実例を述べ、タスク管理、ジョブ管理、記憶管理などのOSの基本機能を解説する。そして、データベースシステムに関する基礎技術や、簡単なSQL文について紹介する。	
		力学基礎	○	力学は、ものの運動や物質に加わる構造的な負荷を考えるための道具です。この授業では、力学の基礎について、座標とベクトルから始め、ある程度複雑な運動や力のつり合いについて理解できるように導きます。	
		ユーザインタフェースⅠ	○	扱いやすい器具や分かりやすいソフトウェア画面など、利用者とモノやシステムとの関係性を設計するための基礎知識の習得を目指す。座学やワークを通して、人間工学、認知科学、心理学、アクセシビリティ、ユニバーサルデザインなどの知識を学修する。	
		ユーザインタフェースⅡ	○	扱いやすい器具や分かりやすいソフトウェア画面など、利用者とモノやシステムとの関係性を設計するための基礎知識の習得を目指す。座学やワークを通して、インクルーシブデザイン、ユーザビリティ、人間中心設計、デザイン思考、UXデザインなどの方法を学修する。	
		ITビジネス論	○	IT(情報技術)を活用したビジネスの仕組みと実践事例の分析能力の習得を目指す。授業では、先進企業のネット販売、ネット広告、DX(デジタルトランスフォーメーション)などのIT活用事例の説明を行う。受講生は、事例からITビジネスのパターンを理解するとともに、ビジネスモデルを分析する方法を学修する。	
		データ構造とアルゴリズムⅠ	○	演算時間の短縮や使用メモリの節減など、プログラミングの際に考えておかなければならないことがある。「データ構造とアルゴリズムⅠ」では主にアルゴリズム、データ構造は主に「データ構造とアルゴリズムⅡ」で学ぶ。Euclid 互除法、探索、ソートの設計方法、計算量の評価方法、プログラムの書き方などを学ぶ。探索アルゴリズム、ソートアルゴリズムでは、グループごとの調べ学習と発表により主体的に課題に取り組み姿勢を身につける。	
		オブジェクト指向プログラミング演習Ⅰ	○	この科目では、機械学習や画像処理など多様な分野で広く利用されているPythonを用いて、プログラミング言語に共通する基本的な知識や概念、オブジェクト指向の考え方を学ぶ。各授業では、要点の確認と例題プログラムの実行を通じて、クラス、カプセル化、継承などのオブジェクト指向の概念を習得する。	
		オブジェクト指向プログラミング演習Ⅱ	○	Java言語の基本文法やクラスライブラリを用いたJavaプログラミングについて学習する。まず、Java言語を用いて、入出力と変数、分岐処理、繰返し処理、配列などの基礎的なプログラミング演習を行う。そして、オブジェクト指向言語の特徴であるメソッド、クラス、インタフェースなどの学習を行う。さらに、GUI部品やグラフィックス命令、ファイル入出力やネットワーク通信を含むプログラムの作成を行う。	
		福祉用具演習	○	福祉用具で学んだ知識をさらに深めるために、高齢者や障害者の生活を支援する方法論としての福祉用具の利活用および適合方法の基礎を演習を通して学ぶ。実際に数多くの福祉用具を見て、触って、体験するとともに、各福祉用具利用場面を想定した課題演習を通して習得する。また、ICTの環境因予である福祉用具が、利用者の地域生活や社会参加活動に対して、促進因として作用するために求められる視点について理解を深める。(この科目は、福祉用具の適合相談の経験を有する教員が、福祉用具の使用方法を指導する。)	
		情報アクセシビリティ	○	本講義では、利用者視点に立ったアクセシブルな情報システムやテクノロジー利用の方法について検討する。人が操作する身近な道具や各種情報機器、ICT関連のアクセシビリティ機能、およびAIやIoT等の情報技術が、多様な人々の生活やさまざまな活動を実現するためにどのように役立っているのか、機器やアプリを開発する時にはどのような点を配慮すべきかを理解する。	
		リハビリテーション工学	○	リハビリテーション工学とは、障害のある人の全人的な復権のプロセスを支援する応用的工学である。本講義では障害を生活モデルからとらえ、さまざまな社会活動への参加や人の発達を支援するという観点から、リハビリテーション工学の独自技術である人とテクノロジーとの適合技術、すなわち、アシスティブ・テクノロジー(支援技術)利用と人間工学について講義する。(この科目は、支援機器の適合支援および機器設計の経験を有する教員が、リハビリテーション工学について講義する)	
		アシスティブテクノロジーⅡ		各種支援機器は利用する人の身体状況のみならず、個々の生活に合ったものが提供されなければならない。本講義では高齢者・障害者の理解、福祉用具の開発、適合支援の方法、供給流通システム、介護ロボットやICT利用、関連する法制度等の各方面の現状と課題について、アシスティブテクノロジーの将来展望も交えながら、できるだけ最新のトピックを取り上げて解説する。	共同
		人工知能Ⅰ	○	人工知能(AI)は、実世界の様々な場面で利用されており、近年では福祉の分野においてもAIが導入され始めている。本講義では、人工知能の基礎として、これまでの人工知能研究の歴史や基礎技術、社会における活用例について説明する。また、AIを用いるために必要となるデータの分析・可視化の方法を学ぶ。次に、AIの中核技術である機械学習や最適化手法について、Pythonによる実装および評価を行い理解を深める。	
		システム設計論	○	システムの概念、システム設計の手順などのシステム設計の基本的事項、システム設計に必要なシステム分析、システム計画、システム設計、システムズアプローチについて学ぶ。さらに、PBL(課題解決型学習)で、クライアントからのヒアリングにより、現状分析、要求分析などのシステム設計を体験することによってシステム設計時の手順、問題点について学ぶ。	
		UXデザイン演習	○	製品やサービスを利用した際に得られる体験(UX:ユーザーエクスペリエンス)を向上するための方法の習得を目指す。受講生は、少人数に分かれて対面形式のワークショップを行い、ユーザー調査やアイデア発想、プロトタイプングなどの実践を通じ、UXデザインプロセスとその手法を学修する。	
		情報工学実験Ⅰ	○	以下の内容に関わる実験を行う。(1)人工知能(AI)は現在さまざまな分野で利活用が進んでいる。本実験ではAIの要素技術のうち、機械学習と最適化手法に焦点を当てる。機械学習に関しては、深層学習を用いた画像認識を行うシステムの構築を行う。データの収集と前処理、モデルの構築、学習結果の評価など、機械学習モデルを実用するまでの一連の術を体験し、実践的な能力を身につける。最適化手法に関しては、実問題に基づく最適化問題を対象とし、問題に合わせたアルゴリズムの適用方法や処理手順を学ぶ。実験を通して、各アルゴリズムの特徴や性能について考察し、様々な実問題を適切な手法を用いて解くための能力を習得する。(2)近年、超小型コンピュータRaspberry PiがIoTで広く利用されている。Raspberry Pi利用のためのOSのインストール、各種設定を行い、ネットワーク端末、ネットワークサーバとしての動作確認を行う。また、センサーをRaspberry Piに接続した実験を行い、IoT機器開発の基礎を身につける。	
		情報ネットワークⅠ	○	情報ネットワークの基本構成や基礎技術について学習する。まず、情報通信システムの基本構成や、変復調、PCM符号化、誤り制御などのデータ伝送技術について述べる。次に、ネットワークアーキテクチャと通信プロトコルについて概説する。そして、有線LAN、無線LAN/WAN、広域ネットワークなどのデータリンク技術について学習する。	
		Webプログラミング演習	○	情報技術を知る上でネットワーク及びネットワーク上で動くプログラムの理解は必須項目のひとつである。本講義では、ネットワーク上でデータベースと共に動作するプログラムの作成を行う。またこの過程を通じて、ネット上にどのようなシステムが構築可能であるかを考える。	
		データベース演習	○	データベースなくして現代の情報化社会は成立しない。本講義では、データベースを基礎から学習していく。また、後半では、ネットワーク上で動作するデータベースシステムの製作を行う。この過程を通じて、ネット上にある様々なデータベースシステムについて考察する。また、資格試験で必要となるデータベースの問題について問題演習を行う予定である。	

専門科目	情報工学専修	データ構造とアルゴリズムⅡ	○	演算時間の短縮や使用メモリの削減など、プログラミングの際に考えておかなければならないことがある。「データ構造とアルゴリズムⅡ」では主にアルゴリズム、データ構造は主に「データ構造とアルゴリズムⅡ」で学ぶ。Euclid 互除法、探索、ソートの設計方法、計算量の評価方法、プログラムの書き方などを学ぶ。探索アルゴリズム、ソートアルゴリズムでは、グループごとの調べ学習と発表により主体的に課題に取り組む姿勢を身につける。	
		情報ネットワークⅡ	○	インターネットの通信プロトコルについて学習する。まず、インターネットの歴史やネットワークアーキテクチャであるTCP/IPについて説明する。そして、IPとその関連技術、TCP、アプリケーションプロトコルなど各階層のプロトコルについて説明する。さらに、ネットワーク性能評価の基礎についても学習する。	
		人工知能Ⅱ	○	近年の技術の発展に伴い、人工知能(AI)は福祉を含む実世界の様々な場面で利用されるようになっている。本講義では、画像認識や自然言語処理などで応用が進んでいる深層学習を中心に、処理の仕組みや関連技術を解説する。また、講義で紹介した手法をPythonを用いて実装することで理解を深める。	
		情報工学実験Ⅱ	○	アンステディブテクノロジー、リハビリテーション工学、福祉情報処理等で学んだ知識を基にして、機器道具と人との関係が及ぼすさまざまな影響について分析評価する知識を養う。本実験では、車椅子操作時の駆動特性、座位姿勢における体圧分散効果、入力デバイスと機器操作との適合性の、主に3つのブロックを取り上げる。その際には、モーションキャプチャ、体圧計測、生体信号計測、入出力信号制御等に関する計測装置を利用して実験を行い、生活や諸活動における各種生活支援機器の有効活用について考察する。	
		住環境整備	○	障害者や高齢者を取り囲む住環境の障壁(バリア)を理解し、日常生活(ADL)や生活の質(QOL)の向上を目指した住環境整備を行うための基礎知識、基本的支援技術を習得する。また障害者や高齢者のための住宅改修案が作成でき、住宅関連機器や福祉用具を利用した住環境整備から生活支援ができる。(この科目は、病院等での臨床や地域リハビリテーションサービスの経験を有する教員が、高齢者・障害者の住環境整備に関する知識を講義する。)	
		マルチメディアⅠ	○	本講義では画像データの原理をプログラミングを通して学習する。まず、2進数と10進数との変換やテキストと文字コードとの関係、C言語を用いたファイルの読み書きについて学習する。そして、画像ファイルのバイナリ出力、画像ファイルの読み込みや書き換えをプログラミングにより行う。	
		CAD演習Ⅰ		3次元CADを利用して、物体表現の方法と3次元CADの特徴および基本的な操作法を実習によって習得し、具体的な製品設計をする能力を身につける。	
		CAD演習Ⅱ		3DCADによる機器設計法とデジタルファブリケーション(デジタルものづくり)を学ぶ。特に本授業では、3Dプリンターによるモデリング(造形)技術を習得するために、3DCADデータの変換方法、設計仕様を満たすための造形条件の検討方法、および機器形状の設計方法を検討する能力を身につける。	
		組込みプログラミング演習	○	IoT(Internet of Things)製品を開発するためには、さまざまな情報関連技術が関係している。その中でも、「各種センサーからデータ収集する」、「そのデータを元にしてある処理を行う」、「その処理が行われた結果を出力し、ある機器を動かしたり、通信したりする」といった機能を組み合わせることが必要となり、その際プログラムの質がIoT製品の善し悪しを左右するといっても過言ではない。本授業では、マイコンボード(Arduino)を用いて実際にプログラミングによって各種回路を試作しながら、組込みシステムの基礎を習得する。また、障害のある人の身体特性に適合した機器操作を支援するための、入出力信号制御インタフェースの検討も行う。	
		モバイルアプリケーション演習		スマートフォンやタブレットPCなどの携帯端末を用いたアプリケーションは、利用者が場所に限定されず、コミュニケーション手段の多様性を手に入られることから、将来的に大きな発展が期待されている。本演習では、携帯端末を対象としたプログラミングを通して、携帯端末用アプリケーションの作成に必要なソフトウェア技術を学ぶ。	
		情報セキュリティ	○	情報セキュリティの基礎技術について学習する。最初に、情報セキュリティの意味について述べ、最近のセキュリティ脅威について紹介する。そして、「ファイアウォール、マルウェア対策、暗号化方式、認証技術などの情報セキュリティ技術を解説する。さらに、電子メールやWebシステムに関するセキュリティ脅威と対策について説明する。モバイル端末やクラウド利用時のセキュリティ対策についても述べる。	
		マルチメディアⅡ	○	本講義では音声データの原理をプログラミングを用いて学習する。まず、音の性質や音声波形、音声ファイルの構造について学習する。そして、音声ファイルのバイナリ出力、音声ファイルの生成や書き換えをプログラミングにより行う。さらに、音声波形の操作により音のエフェクトについても学習する。	
		福祉用具プランニング演習Ⅰ	○	本演習では、今まで学んできた福祉用具関連の知識や技術を基にして、福祉用具プランニングに関する知識を学ぶ。そのため、機器道具の適合技術の習得だけでなく、相談援助技術の手法も用いて、利用者ニーズの聞き取りとアセスメント、課題分析、個別支援計画の立案、モニタリングまで、ロールプレイや事例検討を通して、総合的にプランニングの流れを習得する。(この科目は、福祉用具の適合相談の経験を有する教員が、福祉用具の使用方法和適合支援の方法を指導する。)	
		福祉用具プランニング演習Ⅱ		本演習では、今まで学んできた福祉用具の知識を基にして、高齢者や障害者のための住宅改修の知識と福祉用具プランニングの知識を学ぶ。まずは、住宅図面の見方、描き方を習得し、その後、事例を検討しプランニングを行ない、生活者視点に立ったプランニングの流れを習得する。	
		情報総合演習		本講義では福祉用具プランナーを取得するために、まず基礎知識の総復習を行うとともに不足している知識を新たに習得する。また相談のニーズを把握し住環境整備のプランニングが出来るようになるために、事例を通じた相談援助の技術を習得し、今までの知識を生かした支援計画が立案できるようになることを目指す。	
		マルチメディアとAI	○	情報通信技術の進化に伴い、音声・テキスト・画像などの情報メディアを対象とした処理技術が急速に発展している。本授業では、機械学習に代表されるAI技術を用いたマルチメディア情報に関するデータ処理・分析の手法を学ぶ。プログラミング言語はPythonを用い、実践的な演習を通じて、画像処理や自然言語処理などのアルゴリズムの理解と実装方法の習得を目指す。	
	建築学専修	建築図学	○	建築造形の全ての基礎は図学にある～建築製図・設計演習への基礎を学ぶ。建築図学とは考えた建築空間を図に描き現すことであり、自ら考えて作図することが目的である。	共同
		建築学概論	○	主要な分野の概要を解説することにより、その特徴や基礎的な内容を学びながら、将来の発展性などについて理解する。	共同
		建築材料Ⅰ	○	日本、世界を問わず人間の生活と活動の場を提供する住居やビル等の建築物を建てるのに必要な材料のうち、自重・地震・台風等に抵抗して建物を支える材料が構造材料である。木材・鋼材・コンクリートの三つの素材が最もポピュラーであり重要でもある。これらの諸特性の基本について理解を深める。特に構造材料の力学的性状を表わす「応力と変形」「強度と剛性」の意味を理解する。	
		西洋・日本建築史	○	西洋建築、および日本建築の意匠と変遷をもとに空間構成と意匠表現を理解・修得することを目的とし、各時代の建築様式の特徴と歴史的意味を社会背景との関係とともに概観する。	共同
		建築製図演習	○	製図台の使い方や線の描き方など建築製図のルールを基本から学ぶ。各種の課題を通して演習形式で修得し、後に学ぶ設計演習の基礎とする。	
		建築計画Ⅰ	○	住宅を含む建築空間は生活の基本の場であり、人が最も多くの時間を過ごす建築であるとともに、時代背景、自然・技術・構築・光・土地・意味などに応じて様々なかたちをとるものでもある。本講義ではこれまでの建築家における建築の計画的背景の基礎概念を学ぶことで、今後の多様な住宅を含む建築空間のあり方を考察する力の習得を目的とする。(この科目は、建築計画・建築設計の実務経験を有する教員が、主に住宅を対象とした計画・設計方法等について講義する)	共同
		建築フィールドワーク	○	主に夏休休業期間を利用して、海外の先進的な建築を対象としたフィールドワークにより、海外における建築や都市環境を直接観察し、現なる社会環境、風土、価値観、建築の成り立ち、設計手法などについて学ぶ。また、フィールドワーク先の大学、研究機関、設計事務所との交流を通じ、現地の建築や都市計画についての知識を身につけるとともに、異文化間コミュニケーション能力の向上を図る。	共同
		建築人間工学	○	建築空間は、人間にとって使いやすく、快適で、安全である必要がある。これを実現するために「建築と人間」の関係を理解し、人間の特性(寸法、動作、行動、知覚など)を学ぶ。	共同

専門科目	建築学専修	建築デザイン表現演習	○	Photoshop、Illustrator、sketchupを用いて建築デザイン表現の基礎となる2次元表現を作品制作を通して学んでゆく。	共同
		建築構造力学	○	建築物に作用する様々な力の種類と効果を考え、建築物を安全に保つための建築構造の仕組み（力の釣り合い条件式）の考え方をはり、柱、ラーメンおよびトラスについて徹底的に学ぶ。次に、部材に生じる応力（軸力・せん断・曲げモーメント）と断面に生じる応力度との関係を理解する。最後に建築物のたわみや水平変位などの変形量の計算法を理解する。	
		建築法規	○	人間の生活と活動の場を保障する建築に対して、国民の基本的人権を擁護し、社会の調和ある秩序を保持するために建築基準法をはじめとする建築に関連する諸法規がある。わが国のこれらの法規の前身を正しく理解し違法の大切さを学ぶ。	
		生態学概論	○	生態学は、生物が環境とどう関係しあい、どのように生活をしているのかを解き明かす科学です。現在取りだされている様々な環境問題や自然保護に取り組む時、生態学の考え方を知ることが問題の理解の礎となります。この講義では、これまで生態学にまったく触れてこなかった人でも理解できるように、生態学の考え方を様々な事例を取り上げて紹介します。	
		建築計画Ⅱ	○	施設計画のための調査手法や設計プロセスを学ぶ。また、集合住宅、病院、学校等を対象とし、概念、歴史的変遷、計画上の留意点を理解することにより、設計課題に活用できるようにする。（この科目は、建築計画・建築設計の実務経験を有する教員が、公共施設の計画および設計計画のプロセス等について講義する。）	
		建築設計演習Ⅰ	○	製図台の使い方や線の描き方など建築製図のルールを基本から学ぶ。各種の課題を通して演習形式で修得し、後に学ぶ設計演習の基礎とする。	共同
		エコロジカル建築	○	近年、環境問題が様々な処でとり上げられている。建築学の分野においても重要な課題である。しかし、その目的により採られるべき手法は異なる。本講では様々なエコロジカル技術を実例を通して概観し、私たちの生活がどのように変化するのかを探る。	
		建築材料Ⅱ	○	建築材料のうち仕上げ材料は人間が直接目で見、手で触れることができるため、建築の印象に大きな影響を与え、その価値を左右する重要な材料である。その種類も多種多様である。これらを材種別あるいは用途別に分類して特徴・使い方の基本を学ぶ。特に防火材料や防水材料については十分な理解を深める。	
		建築構造力学応用	○	建築構造力学の発展・応用として、実用的な変形計算法と力の釣り合い式のみでは解けない不特定構造物の解法について学ぶ。さらに耐震設計に欠かせない理性解析の基本を学び、現行の構造設計の背景となっている基礎理論を習得する。	
		建築ユニバーサルデザイン論	○	建築デザインはユニバーサルデザインのみで構成されている訳ではない。さまざまな建築デザイン論を概観し、その中で安全・安心や使いやすさに関係するユニバーサルデザインについて知識を深めていく。ユニバーサルデザインの実践事例をものづくり・住まいづくり・まちづくりで考える。	
		建築設計演習Ⅱ	○	共通：利用者像、敷地・立地の条件を読み解きながら、空間・機能をまとめるトレーニングを行う。前半は、誰もが利用できるサービス、後半では、自然環境に配慮したオフィス空間の設計を行う。それらを通し、自然を生かした環境計画や、人間の活動や滞在状況の把握にもとづいた空間を計画する力を養う。第1課題「小規模福祉施設」第2課題「環境配慮型オフィス」（この科目は、建築計画・建築設計の実務経験を有する教員が、小規模施設における計画、デザイン、構造を含む設計計画指導を行う。）	共同
		建築生産	○	建築生産活動を企画・設計・施工・解体で概観し、建て築くことの意味を考えながら建築生産システムについて基礎的事項を解説する。また、建築作業現場での品質・施工管理や施工技術について、建設現場を訪れ(予定)、最新の動向を示しながら理解促進を図る。	
		都市計画論	○	都市と建築の関わりを概説し、建築と地域の関わり方や建築が地域に与える影響を中心に講義を進める。具体的には、住宅地と生活支援施設の関わり、古くからの街並みと新たな建築の関わり、空家再生の地域への影響などを理解する。また、建築が景観に与える影響を概説し、建築デザインや計画時の配慮についても理解する。	
		建築CAD演習	○	コンピュータを用いた建築作図の演習を通して建築製図の基礎的手法を習得する。現在、広範囲に使われているAuto-CADを用いてCAD (Computer Aided Design) の基本技術を学ぶ。	
		環境政策論	○	この講義では、わが国の環境政策についてまず紹介し、その背景にあるものや、消費者行動および生活居住環境との関わりについて広く学んでいく。地球温暖化をはじめとした環境問題の現状や、企業環境対策やビジネス戦略などについて説明する。また、テキストのなかでは、森林問題や環境評価手法についてもとりあげる。	
		都市景観生態学	○	景観・街並みに関して問題意識が高まりつつある。日本や海外の街並みの創り方や課題などを具体事例を示しながら概観し、生物多様性に富んだ建築・街並みづくりをデザインする方法を学習する。	
		近代建築史	○	近代建築の形成過程について、時代背景や技術・思想を反映した代表的な建築作品の形態的特徴や各建築作品の相互関連の理解をもとに考察する。 また近代以降の西洋の代表的な建築作品が日本の近代建築の形成過程に与えた影響を解説する。	
		ランドスケープ設計演習	○	豊かで美しい暮らしの景観や環境をつくるために、ランドスケープデザインは重要な役割を担っている。 ランドスケープデザインとは「風景や景観の設計」と訳されるが、私たちが生んでいるまちのすべての環境が対象になる。本演習では、まずランドスケープデザインの概要を学び、そのデザイン表現（スケッチや模型作成等）の演習を行う。 また、ランドスケープデザインの具体的な設計課題（街路公園、街区公園）に取り組むことで、デザインのプロセスや実務等についての理解を深める。	
		建築測量実習	○	建築行為に先立ち必ず行われるのが測量である。これによって初めて図面どりの正確な建築工事が達成される。本講義では測量の理論と実際を講義と実習で体得する。最近ではコンピューターを使ったトータルステーション方式が全面的に採用され、簡便性が追求されすぎて理論がブラックボックス化されている。本講ではあくまでマニュアル方式で理論を体得することを大切にす。	
		建築一般構造	○	様々な荷重・外力に対して安全かつ合理的な構造システムを計画・設計するには、建物に作用する荷重の性質と構造システムの耐力と剛性の理解が不可欠である。最初に構造設計の考え方を学び、設計用荷重・外力の性質と扱い方を学習して構造設計の全体像を把握する。次に、本質構造について材料特性、構造要素の強度・変形特性などを学習し、はり材及び柱材の断面設計の例題と演習を行う。最後に我が国独自の木造住宅壁面設計について理論学習し、実践的例題・演習により設計能力を身につける。	
		エコロジカル建築設計演習	○	エコロジカルな建築には様々な手法がある。ここでは各自の設計コンセプトに含致したエコ技術を学び、個性豊かな建築設計を行う。	共同
		福祉環境論	○	居住環境は人間が生活していく上で最も重要な基盤の一つである。高齢者、障害者をはじめ乳幼児、妊婦など様々な状態にあるすべての人にとって安全かつ快適な居住環境の整備が求められている。本講義では、誰もが安全かつ快適に生活し、安心して住み続けることができる居住環境のあり方について理解を深める。	
		総合BIM演習	○	建築生産システムにおける計画・調査・設計・施工・管理の一括管理に必要なBIM (Building Information Modeling) について、BIMソフトに実際に触れながら、従来のCADとBIMの違いを理解し、建築生産システムの全体像や各プロセスにおける課題を総合的に学ぶ。	
		建築防災計画	○	我が国では毎年多くの火災が発生し、時には数多くの犠牲者をもたらしている。その現状を理解し、火災と建築の関係、火災と人の関係について基礎的知識を学び、安全を確保するための制度化や技術、建築計画の考え方について学ぶ。また、自力で避難することが困難な避難行動要援護者が多く存在する医療施設や福祉施設の火災安全と建築計画・避難計画についても理解する。（この科目は、建物の地震・火災リスクの分析評価の実務経験を有する教員が、災害の基礎および建築防災設計の方法論等について講義する。）	

専門科目	建築学専修	都市緑化論	○	戸建て住宅から、集合住宅やオフィスビルなどの大規模建築物まで、建築物に組み込まれつつある「緑」について具体事例を用いて設計の手法や緑化技術を学習する。あわせてその効果を測定する方法も演習を通して学習する。	共同
		福祉住環境計画	○	福祉に配慮した住環境の計画は、今日では不可欠なものとなった。ここでは、高齢者・障がい者、子どもにとっての居住環境および施設計画について論じながら、具体的な整備手法について学ぶ。最後に、設計課題として彼らの特性を踏まえた居住環境計画を行う。（この科目は、建築設計や住宅設備開発の実務経験を有する教員が、主に福祉施設の計画要件およびバリアフリー化の環境整備について講義する。）	
		建築設備	○	快適な居住環境を作り出すために建築環境を調整する技術である建築設備について基礎から応用、計画の考え方などを学習する。具体的な設計計画を行うために計算・演習を多く採り入れる。	
		建築一般構造応用	○	理論的扱いには高度な数学的手法が含まれ、やや難解な部分もあるので、現象の直感的理解に重点を置いて挙動や理論を学習する。構造要素の設計法は挙動理論に基づいて定式化されたものであるため、その理論的背景を考えながら設計例題や演習に取り組み、実務的能力を身につけることを目的とする。前半は鉄骨コンクリート造要素の基本事項と断面設計法の理論を学習し、例題演習により理解を深める。後半では鉄骨構造の材料特性、圧縮座屈や橋座屈の現象理論を学習し、圧縮材や面材材の断面設計の例題と演習を行う。さらに鉄骨材の接合法と設計理論を学び、例題演習により理解を確実にする。	
		建築環境工学	○	快適で安心できる住まいは人間福祉の基本的な条件のひとつであるといえます。そのような住まいを実現するために、多くの工夫が積み重ねられています。快適な環境を実現するための工夫を読み解き、その背景にある原理から理解することを目標にします。	
		福祉環境設計演習	○	本科目履修以前に学んだ設計科目のまとめとして、比較的大規模かつ公共的な用途の建築設計を行う。一級建築士を目指すうえで必要となる建築計画の考え方、および設計の基本技術を身につける。（この科目は、建築計画・建築設計の実務経験を有する教員が、福祉的な要素のある建築を対象とし、計画、デザイン、構造を踏まえた計画・設計方法について指導を行う。）	共同
		環境経済学	○	この科目では、自然環境の保護と経済システムとの関わりについて幅広く学習する。また、環境問題に対する企業のあり方や、様々な企業の生産活動における環境保全への実際の取り組みについても学ぶ。	
		ビオトープ計画施工演習	○	ビオトープの概念を概説し、その上で、実際に施工されたビオトープを見学する。さらに、大学構内の演習用ビオトープの改変計画を行う。さらに、雑木林の植生調査を行い、植生図を完成させるとともに、雑木林の管理計画を立て、その計画に基づき、樹木・下草の伐採、落葉の処理を行い、雑木林管理を行う。その成果をみんなの前で発表（プレゼンテーション）する。この演習を通じて、ビオトープデザインおよび雑木林管理を行う能力を身につける。	
		環境分析評価演習	○	この講義では、統計学を用いて、政策分析や企業行動に関するさまざまな分析などを行うための基礎的なツールについて統計ソフトを用いながら学ぶ。	
		造園学	○	住宅の庭や公園などの身近な緑、さらに自然公園を対象とする造園学の現代に至るまでの履歴をたどり、その将来を展望する。とくに現代社会の自然志向の問題点、造園の領域の推移と技術および思想的展開について国内外の事例をあげながら解説する。さらに、造園（ランドスケープ・アーキテクチャ）の領域を支える原理・原則を概説し、造園学が環境に関わる科学と芸術においてどのような位置付けにあるかを論ずる。	共同
		環境共生のまちづくり	○	持続可能な社会の創造を目指す都市のあり方について、都市計画・建築環境工学の視点から考える。具体的には、まず建築の基礎となる都市計画制度について、その考え方や制度の実態を幅広く学ぶ一方、都市の持続可能性について、都市構造・資源循環・緑・エネルギーなどの視点から考える。そして、低建物の高断熱化や緑化などの効果を論じつつ、建築および都市環境に関わるサステイナブル・デザインについて、エコビレッジや自然住宅などを含むいくつかの事例を取りあげながら、議論したい。	共同
		森林保護学	○	現在、木材としてあるいは景観として人類を支えてきた森林が世界そして日本で衰退や消滅の危機に直面している。そのような状況の中、人類は生態系の健全性を永続的に保持するための方策を持っている。本講義では、現在日本および世界で発生している森林に対するさまざまな危害を紹介するとともに、森林生態系における生物の機能と役割を解説する。さらに、日本の林業をめぐる現状と建材としての展望についてもふれる。	
		企業・行政研究	○	企業の経営や行動および行政機関の役割等について、時事や企業分析、経営分析などを通じて学ぶ。時事を読み解く力を養成し企業研究や企業分析を実施する。その際に、経営分析の基本などについても理解をすすめる。また、全体を通して、社会で求められるプレゼンテーション能力や社会人としての基礎的な能力についてしっかりと習得する。	共同
		ビオトープ研究	○	自然と共生する社会を形成するための一つの手段として、生態学、環境に関わる条約や法律について、土木、都市計画など基礎的知識を幅広く学ぶ。講義はビオトープ管理士の受験対策にも対応して実施する。	共同
	単位認定科目	情報技術Ⅰ		学科の教育目標の達成および学生への進路支援の観点から、特に有益と考えられる情報系の資格を取得した場合、単位認定を行う。対象資格は、資格に関連する成課授業が開講されており、教員の指導や課外講座での学習を通じて取得支援が可能な資格、文部科学省の単位認定資格の基準を満たしている資格、資格取得試験が定期的に全国規模で実施されている資格とし、成課の授業科目を修得して得られる資格（受験資格を含む）は認定しない。	
		情報技術Ⅱ		学科の教育目標の達成および学生への進路支援の観点から、特に有益と考えられる情報系の資格を取得した場合、単位認定を行う。対象資格は、資格に関連する成課授業が開講されており、教員の指導や課外講座での学習を通じて取得支援が可能な資格、文部科学省の単位認定資格の基準を満たしている資格、資格取得試験が定期的に全国規模で実施されている資格とし、成課の授業科目を修得して得られる資格（受験資格を含む）は認定しない。	
		情報技術Ⅲ		学科の教育目標の達成および学生への進路支援の観点から、特に有益と考えられる情報系の資格を取得した場合、単位認定を行う。対象資格は、資格に関連する成課授業が開講されており、教員の指導や課外講座での学習を通じて取得支援が可能な資格、文部科学省の単位認定資格の基準を満たしている資格、資格取得試験が定期的に全国規模で実施されている資格とし、成課の授業科目を修得して得られる資格（受験資格を含む）は認定しない。	
		情報技術Ⅳ		学科の教育目標の達成および学生への進路支援の観点から、特に有益と考えられる情報系の資格を取得した場合、単位認定を行う。対象資格は、資格に関連する成課授業が開講されており、教員の指導や課外講座での学習を通じて取得支援が可能な資格、文部科学省の単位認定資格の基準を満たしている資格、資格取得試験が定期的に全国規模で実施されている資格とし、成課の授業科目を修得して得られる資格（受験資格を含む）は認定しない。	
		キャリア形成Ⅰ		学科の教育目標の達成および学生への進路支援の観点から、特に有益と考えられる情報系の資格を取得した場合、単位認定を行う。対象資格は、資格に関連する成課授業が開講されており、教員の指導や課外講座での学習を通じて取得支援が可能な資格、文部科学省の単位認定資格の基準を満たしている資格、資格取得試験が定期的に全国規模で実施されている資格とし、成課の授業科目を修得して得られる資格（受験資格を含む）は認定しない。	
		キャリア形成Ⅱ		学科の教育目標の達成および学生への進路支援の観点から、特に有益と考えられる情報系の資格を取得した場合、単位認定を行う。対象資格は、資格に関連する成課授業が開講されており、教員の指導や課外講座での学習を通じて取得支援が可能な資格、文部科学省の単位認定資格の基準を満たしている資格、資格取得試験が定期的に全国規模で実施されている資格とし、成課の授業科目を修得して得られる資格（受験資格を含む）は認定しない。	
		キャリア形成Ⅲ		学科の教育目標の達成および学生への進路支援の観点から、特に有益と考えられる情報系の資格を取得した場合、単位認定を行う。対象資格は、資格に関連する成課授業が開講されており、教員の指導や課外講座での学習を通じて取得支援が可能な資格、文部科学省の単位認定資格の基準を満たしている資格、資格取得試験が定期的に全国規模で実施されている資格とし、成課の授業科目を修得して得られる資格（受験資格を含む）は認定しない。	
		キャリア形成Ⅳ		学科の教育目標の達成および学生への進路支援の観点から、特に有益と考えられる情報系の資格を取得した場合、単位認定を行う。対象資格は、資格に関連する成課授業が開講されており、教員の指導や課外講座での学習を通じて取得支援が可能な資格、文部科学省の単位認定資格の基準を満たしている資格、資格取得試験が定期的に全国規模で実施されている資格とし、成課の授業科目を修得して得られる資格（受験資格を含む）は認定しない。	
		インターンシップⅠ		学生が近い将来に就職することを視野に入れて、自身の専攻分野を踏まえながら一定の期間、企業や非営利機関などの事業所において就業体験を行う。社会人として求められる知識や技能を身につけるだけでなく、職業意識の向上、希望職種とのミスマッチの防止、就職活動への円滑な移行へとつなげる。なお、本科目の履修には、インターンシップオリエンテーションへの出席と「ビジネススキル」を受講していることを条件とする。担当教員の指導のもと、学生自身で受入先を探し、事前申請・事後申請等で18日間以上インターンシップ実習の実績を大学が確認できた場合、内容を審査の上で単位を認定する。	
		インターンシップⅡ		学生が近い将来に就職することを視野に入れて、自身の専攻分野を踏まえながら一定の期間、企業や非営利機関などの事業所において就業体験を行う。社会人として求められる知識や技能を身につけるだけでなく、職業意識の向上、希望職種とのミスマッチの防止、就職活動への円滑な移行へとつなげる。なお、本科目の履修には、インターンシップオリエンテーションへの出席と「ビジネススキル」を受講していることを条件とする。担当教員の指導のもと、学生自身で受入先を探し、事前申請・事後申請等で18日間以上インターンシップ実習の実績を大学が確認できた場合、内容を審査の上で単位を認定する。	

自由科目	学科共通	ビジネススキル		本授業はオンデマンド授業（15講）で構成されています。授業では、履歴書の書き方や社会で求められるスキル、考え方をなどを繰り返し学習できるようになっており、今後の就職活動やインターンシップ、そして働く上で必要なスキルを身に付けることができます。また、業界研究や最新の就職情報を学習し、個々人のキャリアビジョンの形成に役立てていきます。	
------	------	---------	--	--	--

- (注)
- 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
 - 専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目であって同時に授業を行う学生数が40人を超えることを想定するものについては、その旨及び当該想定する学生数を「備考」の欄に記入すること。
 - 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくはは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この事項を作成する必要はない。
 - 「主要授業科目」の欄は、授業科目が主要授業科目に該当する場合、欄に「○」を記入すること。なお、高等専門学校を学科を設置する場合は、「主要授業科目」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
 - 高等専門学校を学科を設置する場合は、高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については、備考欄に「☆」を記入すること。

学校法人日本福祉大学 設置認可又は届出等に関わる組織の移行表

令和6年度	入学 定員	編入 学 定員	収容 定員	令和7年度	入学 定員	編入 学 定員	収容 定員	変更の事由
日本福祉大学				日本福祉大学				
社会福祉学部	3年次			社会福祉学部	3年次			
社会福祉学科	400	40	1,680	社会福祉学科	400	40	1,680	
経済学部				経済学部				
経済学科	200	-	800	経済学科	240	-	960	令和7年4月定員変更(40)
健康科学部				健康科学部				
リハビリテーション学科				リハビリテーション学科				
理学療法学専攻	40	-	160	理学療法学専攻	40	-	160	
作業療法学専攻	40	-	160	作業療法学専攻	40	-	160	
介護学専攻	40	-	160	介護学専攻	0	-	0	令和7年4月学生募集停止
福祉工学科	100	-	400	福祉工学科	0	-	0	令和7年4月学生募集停止
				工学部	学部の設置(届出)			
				工学科	100	-	400	
教育・心理学部				教育・心理学部				
子ども発達学科	120	-	480	子ども学科	120	-	480	名称変更
学校教育学科	95	-	380	学校教育学科	95	-	380	
心理学科	100	-	400	心理学科	100	-	400	
国際学部				国際学部				
国際学科	80	-	320	国際学科	80	-	320	
看護学部				看護学部				
看護学科	100	-	400	看護学科	100	-	400	
スポーツ科学部				スポーツ科学部				
スポーツ科学科	180	-	720	スポーツ科学科	180	-	720	
福祉経営学部	3年次			福祉経営学部	3年次			
医療・福祉マネジメント学科 (通信教育)	800	400	4,000	医療・福祉マネジメント学科 (通信教育)	800	400	4,000	
計	2,295	440	10,060	計	2,295	440	10,060	
日本福祉大学大学院				日本福祉大学大学院				
社会福祉学研究科				社会福祉学研究科				
社会福祉学専攻修士課程 (通信教育)	30	-	60	社会福祉学専攻修士課程 (通信教育)	30	-	60	
心理臨床専攻修士課程	10	-	20	心理臨床専攻修士課程	10	-	20	
国際社会開発研究科				国際社会開発研究科				
国際社会開発専攻修士課程 (通信教育)	25	-	50	国際社会開発専攻修士課程 (通信教育)	25	-	50	
医療・福祉マネジメント研究科				医療・福祉マネジメント研究科				
医療・福祉マネジメント専攻 修士課程	30	-	60	医療・福祉マネジメント専攻 修士課程	30	-	60	
看護学研究科				看護学研究課				
看護学専攻修士課程	10	-	20	看護学専攻修士課程	10	-	20	
スポーツ科学研究科				スポーツ科学研究科				
スポーツ科学専攻修士課程	10	-	20	スポーツ科学専攻修士課程	10	-	20	
福祉社会開発研究科				福祉社会開発研究科				
社会福祉学専攻博士課程	8	-	24	社会福祉学専攻博士課程	8	-	24	
福祉経営専攻博士課程	2	-	6	福祉経営専攻博士課程	2	-	6	
国際社会開発専攻博士課程 (通信教育)	4	-	12	国際社会開発専攻博士課程 (通信教育)	4	-	12	
計	129	-	272	計	129	-	272	